

# 見とこ・知つとこ

好日  
日々  
みんなの南部

## めずらしい ぼくしよどぎ 墨書土器出土

県営八金地区ほ場整備事業に伴い発掘調査を行っていた南部町久蔵の八金清水田遺跡から、「厨」と書かれた奈良時代後期の墨書土器が出土しました。

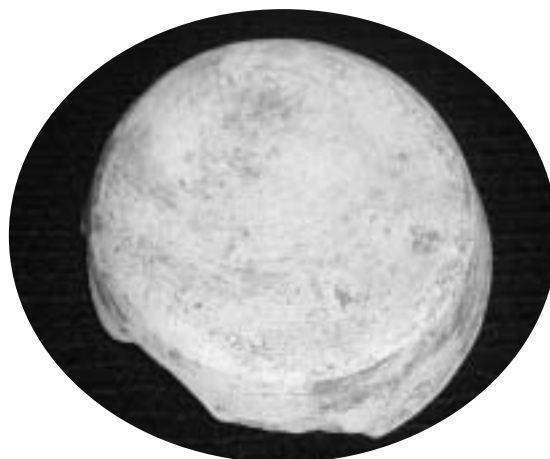
この墨書土器とは、土師器や須恵器の坏などに墨で文字や記号が書かれた土器のことをいい、主にその土器の保管、管理にかかわる施設、官職、人名、地名、用途などが記されています。木簡と並ぶ古代の重要な出土文字資料で、当時の識字層の広がりを知るうえでも大変重要な資料です。

いままで墨書土器は、国府跡や国分寺跡、郡庁跡から出土しています。したがって墨書土器の出土は、このような役所の所在や役人の往来を示すものですが、久蔵はこれらの施設からかなり離れた場所であるため、この地にどのような施設があり、何の目的で役人が出向いてきたのか、今後解明していく必要があります。今のところ祭祀を行っていた場所ではないかと推測されています。また、「厨」という文字が書かれている土器は、県内では倉吉市の伯耆国庁跡から四点出土した例しかなく、しかも、墨の染みこみ具合から判断し、土器の出来そのものがすばらしい、たいへん貴重な土器であるということでした。

島根県立古代文化センターに鑑定を依頼したところ、「厨」の下にもう一文字あるとので、赤外線写真などを使いさらに究明していく予定です。



12月22日の記者発表で説明する教育委員会の泉主任とダイセン文化財研究所の門脇調査員



土師器坏、口径12センチ・底径8.5センチ・器高3.3センチ

